

FD Newsletter

第8号

長崎純心大学 教育開発・FD委員会

発行 2020年3月 〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地 TEL095-846-0084 FAX095-849-1894

目次

- 教育改善の歩み 2019 1
- FD研修会報告 5
- SD研修会報告 6
- 教育開発委員会活動報告 7

教育改善の歩み 2019

教育に関する問題点と組織的改善

文化コミュニケーション学科

改善内容	改善前の問題点
卒業論文提出規定の協議を開始した。	2年次生までの在籍だったため、卒業論文規定が未定であった。

地域包括支援学科

改善内容	改善前の問題点
「臨床心理学概論」にて臨床心理学を身近に感じながら学んでもらうために、実際の質問紙検査や知能検査を体験する時間を設けた。	「臨床心理学概論」は新規開講科目であるため、改善前の問題点は存在しないが、大人数の講義形式だと、体験的な講義ができていく傾向にあるという問題点があった。
「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目について、授業の回ごとにリアクションペーパーを導入した	学生個別の学習の理解度が不明であった。 学生の授業で理解できなかった点のフィードバックが出来なかった
後期オリエンテーション時に転科を希望する学生を対象とした説明会を実施	実施の意図や、学生への周知や実施方法など共通認識がないままの実施となってしまった。
今年度より「地域包括支援実習指導Ⅰ」「地域包括支援実習」「地域包括支援実習指導Ⅱ」を開講した。	長崎大学医学部との連携事業の実績を踏まえ、補助金の終了後も、教育研究の充実を図るため。

こども教育保育学科

改善内容	改善前の問題点
<p>「モンテッソーリ教育学特論Ⅰ」を学科の基幹科目として位置づけ、こども教育保育学科の学生が授業を受け、それを基幹科目の卒業要件単位に加えることができるようになった。</p>	<p>モンテッソーリ教員免許状（3歳～6歳）の取得に必要な授業科目のうち、モンテッソーリ教育に関する科目は、モンテッソーリ教員免許状取得のための単位としてしか設定されていなかったため、学科としてこども教育保育学科の学生全体にモンテッソーリ教育のことを、より知ってほしいとの願いがあったものの、学生側のイニシアティブが働かなかった。</p>
<p>C棟一階に、「保育実践室」を設置し、こども教育保育学科の学生が、保育をイメージしながら、保育実践について学ぶ環境を準備することができた。現在、予算に応じて、年度ごとに備品、設備を整えつつある状況である。</p>	<p>こども教育保育学科の学生が、保育について、具体的にイメージしながら、保育実践を学ぶ場所がなかった。</p>
<p>「エキシビジョン」については、2017年度入学生、2018年度入学生まで、希望する学生が相当数いることを条件に選択制で実施することとし、2019年度入学生からは、「エキシビジョン」を行わないこととした。なお、地域社会への貢献をいかに進めていくか、学生の表現力をどのように維持、発展していくかについては、別に委員会を立ち上げ、検討を重ねている状況である。</p>	<p>4年次に行う「エキシビジョン」について、学生の意識の変化や、教員の職務の負担の増加等で、今後、これまで同様に実施することが困難な状況となってきた。</p>
<p>1年生の学生アドバイザーを5人体制から6人体制とした。 児童福祉分野を専門とする教員を、学科の専任教員として採用した。それにより、小学校実習に行く基準を満たさなかった学生に対して、児童福祉分野についても、キャリアとして男子学生の目を向けさせることができるのではないかと考える。 キャリア支援室、キャリア担当の学科教員とも連携協力しながら、現1年生のキャリア指導について考えていく体制を構築しつつある。</p>	<p>2019年4月の入学生が、132名（内男子学生26名）と、定員100名を超過しており、学科の教育の質の維持が大きな課題となった。それに加え、男子学生のほとんどが、小学校教員を希望しており、小学校実習に行く基準を満たさなかった場合のキャリアへ向けた指導をどのようにしていくかが大きな課題として認識されてきた。</p>
<p>児童福祉分野で豊かなキャリア経験を有する教員を専任教員として採用することができた。</p>	<p>長年にわたり、こども教育保育学科では、児童福祉分野の専任教員が不在であり、この分野に興味関心のある学生の専攻演習の指導や、保育実習指導Ⅱ（施設関係）での指導が十分にできず、この分野の指導の拡充が急務であった。</p>

教務委員会

改善内容	改善前の問題点
在学生を対象とした転学科説明会の開催	学科の専門性が合わず退学を考える学生の増加が考えられた。
G P Aが低い学生への面談実施	学習支援が必要な学生が目立ってきた。
「Practical Computing」「純心の継承と開発 I」の新設	高大連携の強化のために行った。
履修登録の上限に関する規程の制定	単位の実質化について認証評価で指摘されていた。

キャリア委員会

改善内容	改善前の問題点
キャリア関連の授業をキャリアカウンセラーが担当することとした。 「キャリアデザイン A (1 年生後期)」「キャリアデザイン B (2 年生前期)」「キャリアセミナー (英情 3 年生前期)」	複数の教員で協力して行っていたが、専門性にばらつきがあった。 授業内容を調整することが難しかった。
授業として行う「インターンシップ」を専門の外部講師が担当することとした。	キャリアスタッフとキャリア委員長の共同開講であった。しかし、実社会でのキャリアに基づく専門性がより求められるようになってきた。

教育開発・FD委員会

改善内容	改善前の問題点
教員相互の授業参観について、期間を決めて行うのではなく、年間を通して可能であるようにした。	授業参観の時期が 2 週間と限られていると、都合が合わず、見たくても見られない事態があった。
「授業改善のための取り組み計画・報告書」をスタッフサイトに掲載し、本学教職員間で共有できるようにした。	同報告書は、これまで一部教職員に回覧され、委員会でファイリングして保管されており、教育改善のための情報が共有できていなかった。
授業アンケートを Googleform の機能を用いた WEB 入力形式に変更した。	データを業者に送って分析してもらうための事務作業、費用の負担が大きい。 データが蓄積できず、長期視点での分析、教育改善がやりにくかった。

健康管理委員会

改善内容	改善前の問題点
健康な状態で学生生活を過ごし、健康障害が出現する前の意識づけの一助とするために体重・血圧測定を実施し、食生活を含めて保健指導を行なう。今後尿検査を行なう予定である。	4月の健康診断の結果票を受け取りに来ない学生が多い。 健康診断の結果、BMIの数値が高い学生が多く見受けられるようになった。

国際交流センター

改善内容	改善前の問題点
引率教員を付けず最少催行人数を2名とし今年度初めて言語文化海外実習（オーストラリア）を実施することが出来た。	引率教員の旅費負担に必要な最少催行人数5名以上の条件を満たせず言語文化海外実習（オーストラリア）はこれまで実施に至らなかった。
海外に渡航する学生の安全管理を徹底し、大学の危機管理体制を見直すことを目的として、渡航前オリエンテーションの資料に「危機管理マニュアル」を追加した。併せて、センター会議でも、プログラムの進捗状況（募集・選考・出発・帰国等）に関する情報交換を密に行い、現地の治安情勢等の把握に努めるなど、情報の共有を図るようにした。	海外に留学する学生が増加する中で、現地の治安情勢や感染症の流行等に備えた、危機管理のガイドラインが整備されていなかった。

医療・福祉連携センター

改善内容	改善前の問題点
学生の事前学習における学びのばらつきを改善するために、共修授業の事前介入教育を行った。その結果、学習成果の改善が図られた。	学生の事前学習に学びのばらつきが見られた。

その他

改善内容	改善前の問題点
既存の壁を取払い3学科共通の大きな学習室を設けることで、学科、学年を超えた自由な学びの交流が可能となり学生の居場所としても新たな空間を生み出した。	学科毎の部屋に小さく分割され、既に他者が居る場合に入りにくいなど空間の使い方として限定されていた。

FD研修会報告

原田康英（こども教育保育学科教授）

2019年3月12日（火）に「学生と共に創る大学教育」

のテーマの下、2018年度長崎純心大学教職員FD研修会を開催しました。

午前中は、京都産業大学教育支援研究開発センター事務室事務長補佐の津野十紫氏をお迎えし、「学生との対話により創る授業～京都産業大学における教育の質保証に向けた取組から～」と題した講演をいただきました。①授業アンケート ②授業手法の開発・改善支援（教員向け） ③学生の主体的な学びの促進（学生向け）、という三つの取組を柱にしなが
ら、教員と学生が対話するための方策として「対話シート」と「学修成果実感調査」の紹介がありました。その中で、学生と共に授業を創るための取組が、組織、運営、施設の面から一体的に行われていることが伝わってきました。

午後は、「第1分科会：学生と共につくる授業」「第2分科会：社会連携における学生参画」「第3分科会：学生の自治活動と教職員の連携」「第4分科会：大学行事運営における学生協力」の四つの分科会に分かれての議論が行われました。今回の研修会の大きな特徴として、第2、3、4分科会にそれぞれ3～4人の学生の参加を設定したということが挙げられます。分科会の中では、学からの積極的・主体的な発言も有り、学生の声を直接、教育活動の改善に役立てることの意義の深まりを実感した分科会でした。



本年度も、大学設置基準第42条の3に基づく教員・職員
 合同のSD研修会が、2019年8月20日(火)の9時30分
 から15時30分まで、学内にて開催されました。

《調査データを踏まえて「改善」のステップへ!》という
 テーマを掲げて企画された今回の研修会では、一つの試み
 として、外部講師のお話を傾聴する時間をプログラムから
 敢えて外し、午前から午後まで教職員相互の意見交換を
 できるだけじっくり丁寧に行うという、ディスカッション中
 心のプログラムが組まれました。



討議のための材料として用意され、始めの全体会で配布されたのは、本学の学生の意識や実態
 が透けて見える資料として各部署から事前に提供を受けた、次の5種類の統計調査データです
 —— ①学修行動調査（3年生及び1年生を対象に毎年行われるジェイ・サーブ委託調査）の結果
 ②卒業時アンケート（卒業式前日の学科別集会において実施）の結果 ③授業アンケートの
 学科別集計結果（2018年度前期及び後期実施分） ④休・退学者数の状況 ⑤学生相談室来談
 者数・相談理由等の状況。

資料説明の後、教職員はさっそく各自の参加する分科会会場へと移動。A～Gの各分科会に割
 り振られた討議テーマ(※)の下、調査データから読み取ることのできる現状の問題点と改善へ
 向けての方策について、活発に意見を交わしました。

- (※) 分科会A「文化コミュニケーション学科の教育に関する検討」
- 分科会B「地域包括支援学科の教育に関する検討」
- 分科会C「こども教育保育学科の教育に関する検討」
- 分科会D「全学科共通又は学部全体の教育とその質保証のあり方に関する検討」
- 分科会E「入試広報戦略に関する検討」
- 分科会F「学生支援のあり方に関する検討」
- 分科会G「設備環境（図書館、コンピュータ、厚生施設等）のあり方に関する検討」

最後は開始時と同様、全体会の会場（大教室）に再度集結。各学科の長、教務委員長、入試委
 員長、学生委員長、キャリア委員長、図書館長の責を帯びた教員が順次、各分科会を代表する提
 言者として登壇し、これからの大学改善に向けて何をなすべきか、それぞれの立場から全員に訴
 えました。

事後に実施した参加者アンケートを見ると、「資料（データ）の量が多すぎて混乱した」のよ
 うに、事前の準備段階でのさらなる工夫を望む声がある一方、「今回のように『調査データを教
 職員全員で点検・確認し、改善策等を協議する』かたちの研修会を、これからも定期的に行っ
 ていくべきであると思うか」という質問に対して「とてもそう
 思う」43%・「どちらかといえばそう思う」46%と、約9割
 の参加者（回答者数の総数は72名）が肯定的に受けとめた
 ことがわかります。結果的にどこまで「改善」の実を上げら
 れるかは、また別途考える必要のある難しい問題ですが、少
 なくとも大学のスタッフ全員を巻き込んで組織的改善に対
 する関心や期待を高めていくための手法としては、討論に多
 くの時間を割いた今回のような研修会のかたちは有効であ
 ると考えられます。



教育開発・FD委員会 活動報告

2019年度

■教育開発委員会

第1回	2019年	4月	17日	第2回	2019年	5月	15日
第3回	2019年	6月	12日	第4回	2019年	7月	17日
第5回	2019年	9月	11日	第6回	2019年	10月	9日
第7回	2019年	11月	13日	第8回	2019年	12月	4日
第9回	2020年	1月	22日	第10回	2020年	2月	26日
第11回	2020年	3月	19日				

■学生による授業アンケート

前期 2019年7月23日(火)～8月5日(月)

後期 2020年1月23日(木)～2月5日(水)

※教員へフィードバックアンケート実施(前期・後期併せて)

集計結果の公開(本学ホームページ、学内スタッフサイト掲載)

■教職員による授業参観

通年で実施

■教職員FD研修会

2020年3月11日(水)に予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止

■出張等

令和元(2019)年度第1回教育改革FD(高等教育の質向上専門委員会及ぶ教務系WG主催)
(2019年9月10日(火)長崎国際大学)

参加者:坂本雅彦

令和元(2019)年度第2回教育改革FD(高等教育の質向上専門委員会及ぶ教務系WG主催)
(2019年12月21日(土)長崎国際大学)への参加

参加者:原田康英、坂本雅彦、片岡拓也

図書・雑誌の案内

※教育開発推進室所蔵の図書や雑誌の貸出しを希望される方は、図書館で手続きを行ってください。

■定期購読雑誌等

「高等教育研究」日本高等教育学科会編 玉川大学出版部発行

「IDE 現代の高等教育」IDE 大学協会発行

編集後記

今年度より紙媒体での発行を止めウェブ掲載に変更するとともに、教育に関する組織的取り組みの情報を共有・周知する「教育改善の歩み」を編集の中心に置くことにした。改善サイクルの換気口となることを期待したい。(勝俣)

2019年度教育開発・FD委員会

委員長 原田 康英(こども教育保育学科教授) 坂本 雅彦(こども教育保育学科教授)

勝俣 好充(文化コミュニケーション学科教授) 石井 望(文化コミュニケーション学科准教授)

奥村 あすか(地域包括支援学科 助教) 中満 英子(学部事務室)